

2020年3月、お父さん、お母さんが集まる環境団体グリーンジャーニーを設立し、2023年にNPO法人化。お子さんたちとの時間も確保しながら環境活動に取り組む大変さ乗り越えながらも、現在も代表として気候変動問題を中心に環境問題と向き合っている空木マイカさん。都市の中でもっと生物多様性が保全され、脱炭素ができ、資源が循環できるような社会の仕組みづくりを目指していらっしゃるとのこと。あいち森と緑づくり環境活動・学習推進事業交付金を活用することで、これまで資金面で断念していたことにたくさん挑戦できるようになったそうです。今回は、空木さんにいろいろとお話を伺いました。



特定非営利活動法人 Green Journey

代表 ^{うつき} 空木 マイカ さん

●環境活動を継続してよかったことは何ですか？

生物多様性を学ぶイベントに来てくれた人が「初めて環境のことを考えるようになった」と言ってくれたり、畑でニホンミツバチの養蜂を始めた1年目には、怖くて近寄れないと言っていた人が「かわいくなってきた」とお世話に来てくれるようになったり、少しずつでも環境への理解の輪を広げている実感があった時に、続けていて良かったなと感じています。

●環境活動を続ける上で、支えとなっている「思い」は何ですか？

Be the change that you want to see in the world. (見たいと思う世界の変化にあなた自身がなりなさい)というガンジーの言葉です。「何か大きなものを私の力で

変えてやる」というのではなく、「自分自身が変わることで、すでに世界の一部は変わっている。その輪を広げていければ、確実に世界は変わっている」という考え方を知って、問題の大きさに途方に暮れるのではなく、私は私にできることをやり続けようと思えるようになりました。

●伝えたい考えや思いなどがあれば教えてください。

これまで私たちは、スタッフはみんなボランティア、活動の資金も個人の持ち出しでした。それが交付金を活用できるようになって、これまでいかに資金面で活動が制限されていたのか、スタッフに負担がかかっていたのかがよくわかりました。未来のために意味のある活動にこそ、しっかりと資金がまわり、大きく広がっていく社会になるといいなと思います。

気候変動の現実を知った時、自分の子どものために一番やってあげべきことは、この子たちが大人になった頃にも安心安全に暮らせる地球をプレゼントしてあげることだと思いました。

●環境活動に興味はあるものの、どう始めていいかわからない人に対してメッセージをお願いします。

「こうなったらいいのにな」という社会への思いを「どうやったら実現できるかな？」という問いに変え、その中から自分にできることを考えていくと、目指す未来と自分との間にある活動の道筋が見えてくるのかなと思います。いきなり大きなことではなく、小さなアクションを少しずつ大きくしていくのが良いような気がします。



子供たちに語る空木さん

森・緑の育成活動

あいち湧水湿地の会

内津湿地の保全活動

希少な動植物が見られる湧水湿地である春日井市内の内津湿地において、水質、動植物相、シデコブシ、サギソウ及びモウセンゴケ類の生育状況調査・遺伝子解析等の科学的見地に基づく調査を実施しました。



調査によって、本湿地の希少な動植物の分布状況、サギソウなど湿地性植物の生活史や遺伝的特性が分かってきました。さらに、モウセンゴケ類が捕虫する虫についての解明も行っています。これらの結果を保全活動に活かしていきたいと思えます。

会長 渡邊 幹男 さん

サギソウや食虫植物がこんなに身近にいて、絶滅のおそれがあることを初めて知りました。これらを守っていききたいと思いました。

参加した方の声

水と緑の恵み体感

半田子どもエコクラブ

トビハゼもどれ 半田の干潟へ！！

半田市内でトビハゼの生育環境の改善活動などを行うほか、参加者と川に入ったリカヌーに乗ったりして、水環境や生きものに関心を持てるような活動を行いました。年間活動をまとめた壁新聞が文部科学大臣賞を受賞しました。



親子参加で愛知県の自然に触れ、環境を考えたり、生きものから学ぶことのできる感性を育て、子どもたちの心を「やさしく」「豊か」にすることを活動の目標にしています。

代表
山田 和男 さん

干潟には缶やプラスチックがたくさん落ちていました。自然に良くないなと思いました。干潟掃除のあと、トビハゼを放流しました。トビハゼたちは嬉しそうにぴょんぴょん跳んでいき、なんだか僕も嬉しかったです。

参加した方の声

森林生態系保全の学習

エコネットチェーンソーズ

奥三河の森林保全と間伐ボランティア活動

新城市内の「間伐の森」で、参加者が森林の働きを学び、間伐体験や森の資材を使った物づくりなどを行う環境イベントを2回開催しました。また、ジュニア会員に森で生きる技術を伝え、一緒に森の整備を行いました。



環境イベントでは、生物多様性保全や森林環境保全の必要性を、体験活動を通じて参加者に理解してもらいました。月2回の常時活動は、その準備と森の環境整備に努めています。

会長 鬼頭 茂雄 さん

間伐後に差す光を見た3歳の女の子が「太陽のご飯がいるんだね」と自身の言葉を使って母親に話しました。よく理解してくれました。

参加した方の声

太陽・自然の恵み学習

大府市

公共施設への緑のカーテン設置による市民への環境学習の啓発

公共施設に、緑のカーテンを設置し、利用者に対して啓発活動を行いました。更に、市民を対象に緑のカーテンの育成方法の講座を開催し、環境ポイント事業の対象行動として位置づけ、参加者への普及啓発を行いました。



見た目にも緑が映え心が落ち着く、体感的に涼しく感じる、ゴーヤがもらえてうれしかった、という声をいただきました。

参加した方の声

多くの公共施設に緑のカーテンを設置することで、施設のエアコンの電気使用量削減だけでなく、市民の地球環境問題の意識醸成にも貢献している事業です。

大府市市民協働部環境課 永井 優花 さん

独自提案による環境保全活動・環境学習

学校法人SOLAN学園

提案・行動型人材の育成プログラムの開発・発信・展開

地域の自然環境を知り、学校ビオトープをフィールドとした実践活動を通して、自然環境に配慮し持続可能な社会の創り手となる子どもを育成するためのプログラム開発とその発信・展開をしています。

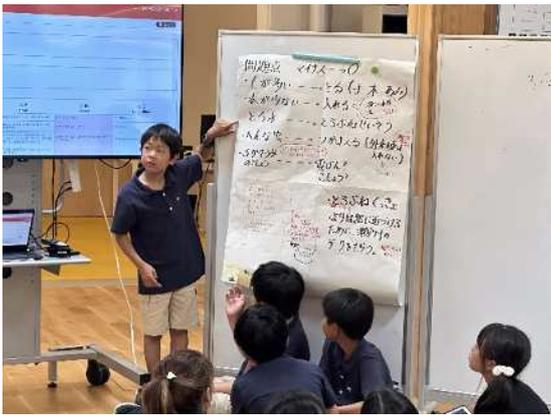


学校ビオトープづくりという教育活動を通して、子どもたちは自然と自分との関わりを見つめ直し、何か自分にできることを行動したいという思いをもつことができました。

副校長 三宅 貴久子 さん

自分たちでビオトープをつくって管理するのは大変だけど、生きものたちの目線で考えることの大切さを学びました。

参加した方の声



生態系ネットワーク形成

西三河生態系ネットワーク協議会

西三河地域における生態系ネットワーク形成

幸田町内の企業緑地である里山林(ソニーの森)で在来種の種子を採取し、地域住民と一緒に苗木を育て植樹する「苗木循環育成モデル化事業」を実施しています。



今年で10年目となる本事業は、社員やそのご家族、地域の皆さんにも協力をいただき、700本近い苗木を提供してきました。今後も皆さんにソニーの森を知っていただきつつ、地域に貢献していきます。

ソニー幸田サイト 清水 ひかる さん



虫に食べられていないどんぐりを見つける方法についても知ることができ、昆虫採集・森ができる過程もすべて勉強になりました。動植物を大切に育てていきたいです。

参加した方の声